

エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

【会報 120 号】 2019.04.05

FGF助成事業

北大獣医の飲み会はやばい

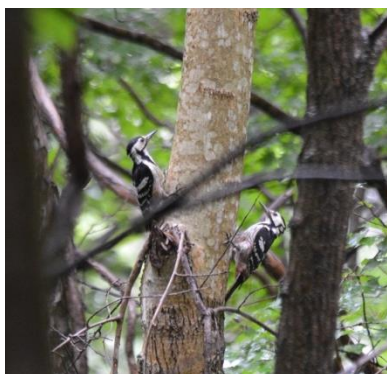
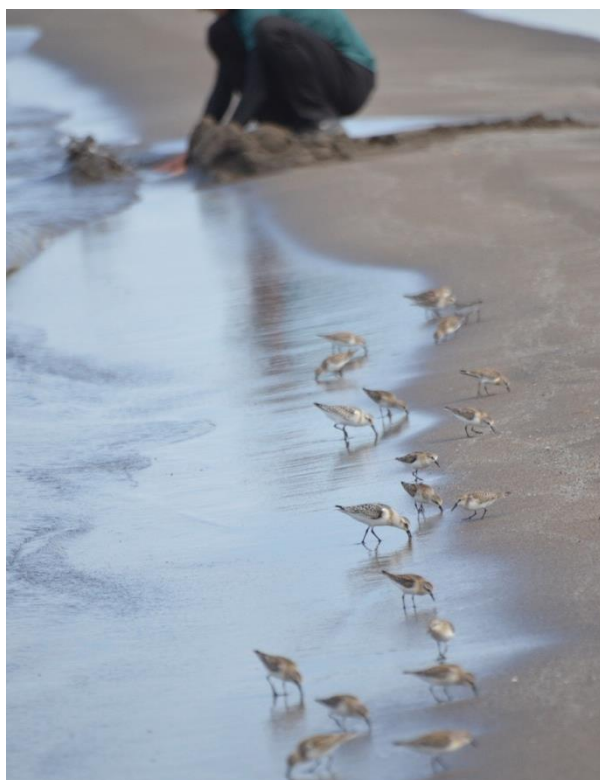
北海道大学獣医学部2年 伊藤萌林

んですよ。(なんでも良いから会報になんか書いてくれって言われたけど難しいですね、何書こう。) 最初は驚きましたねえ。ケモノの学部だけあってか(?)裸族になる先輩が続出しましたですね。(こんなこと書いて良いんですかね) 男性だけで盛り上がるならまだわかるんですが女性も絡んで騒いでるんですからぶっちゃけ引きましたね。はい。(北大獣医の飲み会は北大随一の荒れようだと知ったのは後の話)そんなバカ集団とはいえですね、さすが生物系の知識はまじで半端ないっすよ。高校までは通じなかった話が前提の説明無しで通じることには感動しました。。



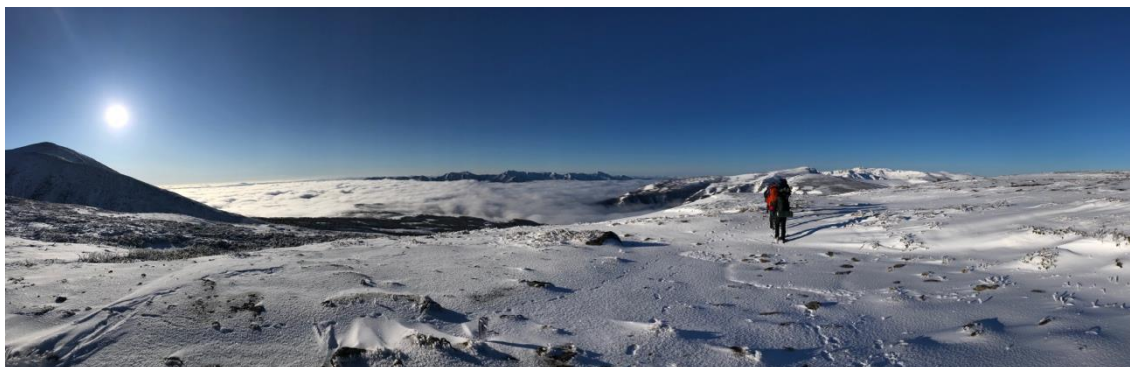
エゾライチョウ。文章には 1mm も関係ない写真を自慢のために載せます。美味しそう可愛いですね。

北大獣医学部に生き物屋は少ないですが北大全体で見ると結構いて、一緒にフィールドに出たりしています。楽しいですね。今年の夏休みには同期と何回か海岸まで自転車で絶滅危惧種(ⅠA)のヘラシギを探しに行きました。しかしいるのはトウネンやミュービシギばかり。飽きて土いじりばかりしている同期もいましたね。(右写真)一人で行っていたら何もいないと辛くなるのですが友達と行けばなんでも楽しいですね。友達とフィールドに行くなんて高校まではなかったのになんか嬉しかったです。

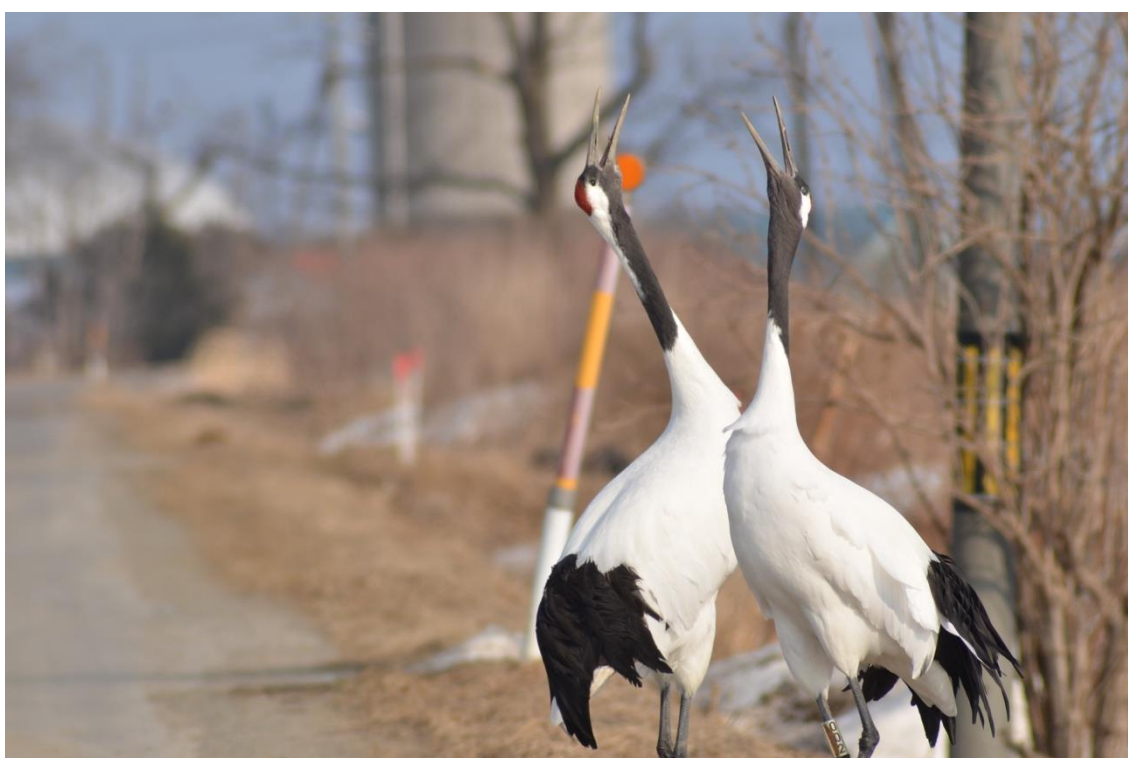


もちろん一人でフィールドに出ることもあります。札幌周辺には十勝ではほぼ見ることのできないオオアカゲラがわんさかいて(左写真)嬉しかったりもしますが、一方でリス類やカラ類は帯広よりもひどく餌付けされている場合もあって残念な気持ちになることも多いです。

あ、そうそう。時々山にも登ってるんですよ。ワンダーフォーゲル部に入っているのですが、これまた楽しいですね。この間初めて冬山に行きましたがカッコ良さがすごかったです。ちなみに下の写真は冬山のように見える残雪期の大雪です。



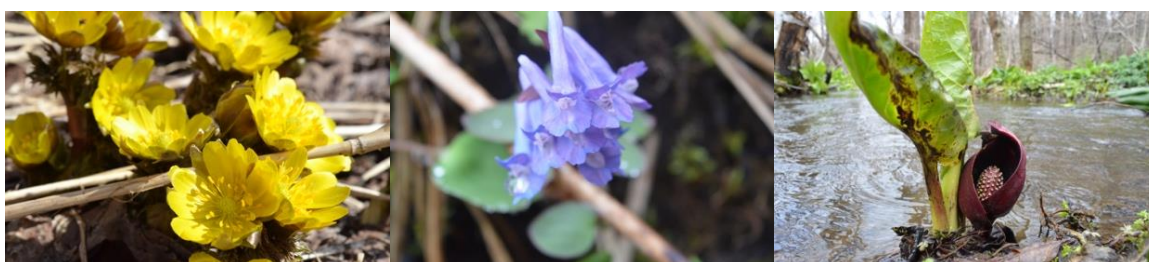
フィールドに出ていると面白いことがたくさんありますね。例えば下写真のタンチョウ。道路脇で鳴き交わしているのは若干驚きました。あと観察力のある方なら気付いたかもしれませんが、右の個体の目が若干白くなっています。右の個体は「瞬膜」と呼ばれるまぶたのようなものを閉じていますね。加えて、右の個体の右足には「002」と書かれた足環がついているのも目の付け所です。ググった結果、これは NPO 法人タンチョウ保護研究グループが 2005 年に幕別町で生まれたメスの個体につけたものだということがわかりました。この個体は今年で 14 歳ということですね。同グループの研究によれば 14 歳になる個体数は生まれた時の 20%もないということです。



まあこんな感じで学生の自由時間を使っていっぱいフィールドに出ております、という報告でした。なんのまとももない駄文でしたね。真面目に読んだ方すいません。

なぜか鳥ばかりになってしまったので春らしい植物写真でも載せておきます。

左からフクジュソウ、エゾエンゴサク、ザゼンソウ



『街のエゾリスと郊外の

エゾリスのお話』

2月26日に、帯広百年記念館2号室で標記の講演会が開催されました。

講師は、会報でおなじみの「うっちーさん」こと北海道大学大学院内田健太さんです。

内田さんは、帯広では緑ヶ丘公園をフィールドにして大学院博士課程での研究を続けてられました。2月1日に北大で博士論文の発表会があり（もちろん、博士になりました）論文の内容を平易に分かり易く講演頂きました。今回の講演会は、それほど案内をしましませんでした。なんと60余名の方々が聴講に訪れました。さすが、うっちーさん！！



編集後記： 今年の冬は、雪が少なく、足腰に負担が軽く（雪かきが少なかったため）フィールドに早く出られるかなと思っていましたが、逆に冬場に足腰を使わなかったためか、体の動きが悪い。まずは、歩くことから始めよう！ n.m

エゾリスの会 会報120号

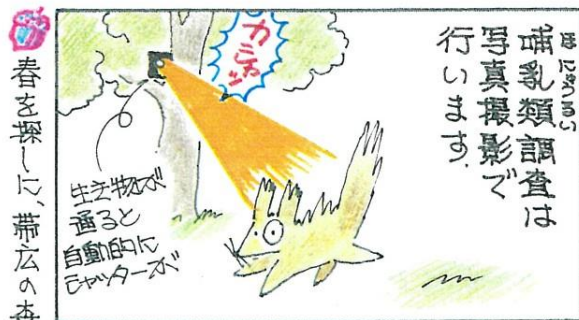
発行日：2019. 04. 05

発行：エゾリスの会

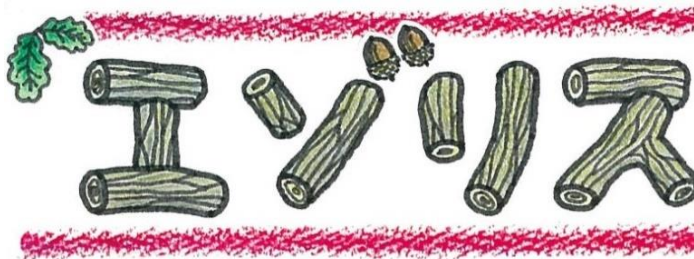
〒080-0027 帯広市西17条南3丁目6-14 ☎0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp

裏エゾリスの会 No. 37



by 71号



エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行って

【会報 121号】 2019.06.14

F G F 助成事業

「帯広の森づくり活動発表会」が開催されました

帯広の森では、市民植樹祭や市民育樹祭が終了した以降も、市民団体などにより、植樹や育樹活動は継続されています。平成21年に活動ボランティア団体や帯広市、事業者などで「帯広の森づくり協議会」が設立され、意見交換、連絡調整や情報交換等が行われています。この会に加盟する11団体による、1年間の活動発表会が6月1日「帯広の森はぐくむ」で開催されました。 当会の活動を写真で紹介します。

今年も活動は盛沢山あります。ぜひ参加してくださいね！！



2019年度事業計画

1. 自然と触れ合う事業

a) 自然観察会等 2回開催

- 第1回「帯広の森のチョウを見つけよう」 と き：2019年6月16日（日）
ところ：モニ1000チョウ調査区
- 第2回「冬至祭」 と き：2019年12月22日（日）
ところ：観察小屋

b) 動植物を考える他団体との連携

- ・園路沿いの池の泥上げ（協力）
- ・共同観察会の開催
- ・森づくり協議会に参加

2. 調査事業

a) エゾリス生息マップの作成（帯広市内）継続事業

シマリス情報の収集・道路横断の実態・緑ヶ丘公園の生息マップ作成

b) 帯広市委託調査（帯広の森の小動物の生息調査）

*エゾリス分布調査 調査月日： 「エゾリス・センサス」

5月26日（日） 6月1日（土）6：30集合

10月20日（日） 10月26日（土）6：30集合

集合場所：帯広の森・はぐくむ 駐車場

*チョウセンゴヨウ松の結実調査 帯広の森内（秋の調査時10月20日）

*エゾリスの冬の巣調査 10月26日（土） エゾリス・センサス終了後

場所：帯広の森 昭和 年植樹区

c) 表土まきだし調査（帯広の森） 手入れ

d) FGF 助成事業 助成額：170万円

- ・エリア1の里山林再生と利用
- ・エリア2とエリア3の自然林の再生
- ・活動拠点整備事業
- ・効果的な普及手法の検討

3. （財）日本自然保護協会主催の「モニタリングサイト1000」事業（2008年～）

帯広の森内で、鳥類調査、植物調査、チョウ類調査、哺乳類、カエル、インパクト調査データを活用して、帯広の森管理プラン作成に利用する

4. エゾリスの会広報事業

- a) 会報の発行 4回発行（全ページカラー化） b) エゾリスの会リーフレット作成

5. 里山をつくろうプロジェクト

- ・2019年6月から月1回
- ・間伐、草刈り等

6. 創立35周年（2021）記念誌の発行（資料収集）1986年（S61年4月）発足



エゾリスセンサス（巣の調査）



里山P（間伐）

会費の納入についてのお願い

2019年度の会費の納入を受付けておりますので、よろしくお願いいたします。

当会は、皆様の貴重な会費で運営しておりますので、なるべく早い機会に収めていただければ幸いです。〈封筒のお名前の下番号が納めていただいている年度です。〉

例：18Aは2018年度個人会員、18Bは2018年度家族会員、18Cは2018年度賛助会員です。【会員規定】

1. 会費を納入することによりエゾリスの会会員となる。
2. 会員となることにより、優先的に会の事業への参加、備品の使用が行える。
3. 2年間会費を納入しなければ退会したものとみなす。

【会費区分】 個人会員 (A) 500円 家族会員 (B) 1,000円

賛助会員 (C) 1,000円 (1口) 何口でも結構です。

【納入方法】 ・十勝・帯広の方は、同封致しました振込み用紙により帯広信用金庫本支店から振り込んでいただきますと手数料が無料となりますのでご利用ください。
・郵便局からは、郵便振替でお願い致します (手数料はご負担願います)。

振替口座番号：02710-5-4616 振替口座名：エゾリスの会

2019年度収支予算書				
				単位：円
	18年度決算額	19年度予算額	増 減	備 考
収入の部	1,441,517	1,549,000	107,483	
支出の部	336,281	1,549,000	1,212,719	
次年度繰越金	1,105,236	0		
収入の部				
				単位：円
科 目	18年度決算額	19年度予算額	増 減	備 考
1 会費	30,000	31,000	1,000	会員数42名
個人会員	14,000	15,000	1,000	30名
家族会員	10,000	10,000	0	10名
賛助会員	6,000	6,000	0	2会員
2 受託料	299,992	299,000	△ 992	帯広市
3 事業収入	400	2,000	1,600	観察会参加費
4 雑収入	3,525	1,764	△ 1,761	前年度会費、寄付金、利息等
5 繰越金	964,248	1,105,236	140,988	
6 繰入金	100,000	100,000	0	モニ1000会計より
7 補助金等	43,352	10,000	△ 33,352	
総 額	1,441,517	1,549,000	107,483	
* 預り金	16,000	0	△ 16,000	前納会費
支出の部				
				単位：円
科目	18年度決算額	19年度予算額	増 減	備 考
1 事務費	85,578	160,000	74,422	
消耗品費	21,890	50,000	28,110	コピー代、ラベル用紙、封筒等
写真プリント費	0	10,000	10,000	記録用
通信費	23,878	40,000	16,122	会報郵送費、切手、はがき
会議費	39,810	60,000	20,190	総会費、例会費
2 事業費	176,473	470,000	293,527	
印刷費	99,468	250,000	150,532	会報印刷費(カラー)4回発行
観察会費	1,000	30,000	29,000	保険料、資料等
パネル制作費	0	30,000	30,000	写真パネル等
他団体活動費	2,500	10,000	7,500	百年記念館友の会会費等
里山P費	73,505	150,000	76,495	保険料、資材費、チラシ印刷
3 調査費	30,586	150,000	119,414	
機器購入費	0	100,000	100,000	調査機器等
報告書作成費	13,440	30,000	16,560	印刷費等
調査費	17,146	20,000	2,854	調査関係費、資材費等
4 雑費	11,720	50,000	38,280	手数料等、
5 予備費	31,924	564,000	532,076	観察小屋修繕費積立
6 広報活動費	0	150,000	150,000	リーフレット作成費、ホームページ関連費
7 前払い費	0	5,000	5,000	
総 額	336,281	1,549,000	1,212,719	

『観察小屋の巣箱にスズメバチが』

昨年、観察小屋に設置したこうもり用の巣箱に、何とスズメバチが営巣中。

女王バチが幼虫を育てています。観察小屋の巣箱は、内側が透明ガラスになっていることから、小屋の内部から巣箱の中を観察できます。



編集後記

5 月末の暑さ。少雨。いろいろな国からも天候異変のニュースが発信されています。地球環境に「おもてなし」をする時期では。n.m

エゾリスの会 会報121号

発行日:2019. 06. 14

発行:エゾリスの会

〒080-0027 帯広市西 17 条南 3 丁目 6-14

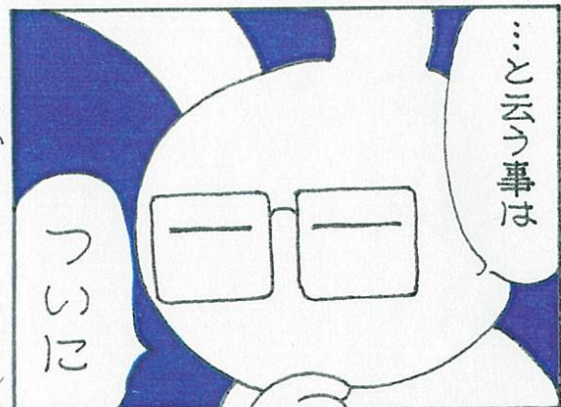
☎0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp

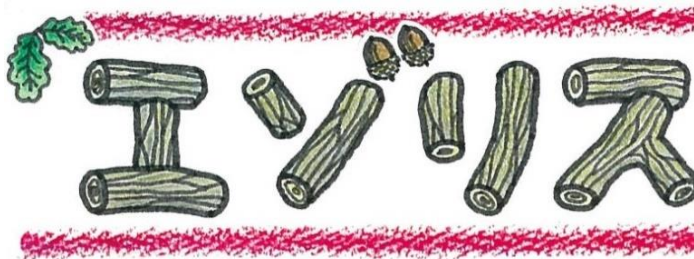
裏 エゾリスの会 No.33



風もさわやかな帯広の森で、森づくり&調査をしてみませんか? 詳しくは別紙・行事予定で♪



by 71場



エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行って

【会報122号】 2019.09.10

F G F 助成事業

☆うちーさんさんのエゾリス観察ルポ⑪ いざアメリカへ

「人と野生動物のうまい付き合い方を探る」
～立志から街のリス研究を振り返って～

《博士研究員（北海道大学・日本学術振興会）内田健太》

久々に寄稿させていただきます。私は、この度北海道大学の博士課程を修了して、無事に博士号を取得することができました。2013年にエゾリスの調査を初めて、早いもので6年の歳月が流れました。振り返ると、エゾリスの会の方々にはモニ1000に参加させて貰ったり、講演会を主催して頂いたり、ご飯に誘って頂いたり、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。大きな節目の時を迎えて、今回の執筆で何を書こうか悩みましたが、私が人間と野生動物の関係性に興味を持った経緯と、十勝での研究を通じて今思うことを綴ろうと思います。私事かつ拙い文章で恐縮ですが、どうぞお付き合いください。

私は、幼少の頃より生き物が大好きで、ゲームや読書、もちろん勉強よりも自然と戯れている時間が長かったようです。母の話では幼稚園の頃の私は、サンタクロースにカタツムリをお願いしたり

り（ちゃんとツリーの下に届いていましたww）、生き物を見つけてはズボンのポケットに入れて持ち歩くような子供だったそうです（ズボンはそのまま洗濯機に...）。とにかく生き物が大好きで、魚から鳥まで飼っていた野生動物の数は計り知れません。さらに、生活環境も私の自然観に大きな影響を与えたようです。生まれから幼少期を大都会と熱帯の自然

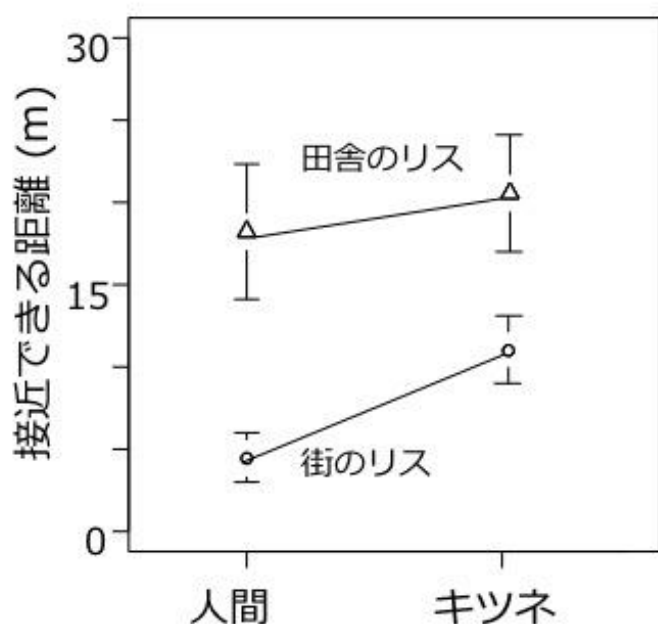


図1. 玄関先でリスに出会える環境が続くことを願います

が共存するシンガポール、それ以降を里山が残る岐阜で過ごす中で、私は次第に人間社会と野生動物の関係性に強く関心を持つようになっていたみたいです。しかし、小学生高学年ごろから、生き物番組では、次第に人間活動により住処を奪われる可哀想な野生動物の特集が増えていきました。伐採された熱帯雨林を背後に、悲しげに佇むオラウタンなどの映像を何度見たことか。そんな番組を見るたびに私は、かわいそうな野生動物に心を痛める一方で、「生き物にとって人間が悪」という報道にどこか違和感を持っていたことを憶えています。今思えば、人間も野生動物も好きな自分は、この頃から両者の共存を目指したシステム作りに関する仕事をしたいと考えていた気がします。

そして、長らくそんなモヤモヤを抱えながら、私は修士課程へ進学してエゾリスと出会いました。リスを選んだ理由は、個体数を集めやすく(研究では非常に重要)、捕獲して観察が容易だと思ったからでした。結構ドライな理由で選んだエゾリスでしたが、実は私のモヤモヤを解消してくれる絶好の生物となります。当初私は、リスを使って野生動物の保全や管理に“直結する研究をしたい”と考えていました。森林性のリスを使えば、人間活動による森林の分断化が、野生動物に及ぼす影響を調べられるのではないだろうか。“可哀想な”野生動物の保全に繋がられるはずだと。そこで、農地が広がり孤立した林が多く存在する十勝を訪れました。

しかしながら、十勝で私が目にしたのは予想とはちょっと違ったものでした。リスたちは、小さく孤立した林や、四方を道路や家で囲まれた街中の公園でも生活しています(図1)。そしてエゾリスたちの観察を続けるうちに、“可哀想な”という見方が偏っていたことに気がつくようになりました。



た。リスたちは、人間が植えた街路樹に巣を建設したり、電線を伝って公園間を移動したり、人間が与えるエサを食べたりと、人工的な環境を巧みに利用しているではありませんか。実際に研究をしてみると、強かに街の環境を利用する姿が明らかになってきました。例えば、遺伝子を用いた私たちの研究によると、リスは何キロも離れた公園間を移動して繁殖している可能性が見えてきました。また、昼行性の彼らの一部に、真夜中でも動いている個体がいることが分かりました(これはまだオフ

レ

図2. 街のリスは人間と天敵を見分けて、柔軟に行動を変えています

コでww)。天敵が少なく、夜中の街灯を利用しているのかもしれませんが。中でもリスたちが、我々人間のことをちゃんと認識して的確に対応していることには驚きました(図2)。様々な行動を調べていたところ、街と田舎で人間に関連した行動がクリアに違っていました。彼らは、無害でエサをくれるなど都合のいい人間を上手に利用しているように見えます。野生動物が街で暮らすためには、本来は天敵であるはずの人間に的確に対応できるかがカギだとされています。確かに、一部の公園

では人間との距離が近すぎると感じることもあります。交通事故の発生も無視できません。しかし、彼らは環境変化に迅速に対応することができる術・強かさも持ち合わせています。今後、彼らと共存を目指すためには、“可哀想な野生動物”という固定観念をまずはちょっと置いておいて客観的に現象を捉える姿勢が必要だと強く感じました。私自身は、研究者として客観的な立場から、正しく彼らの生態・研究成果を社会に発信していこうと考えています(そこにちょっと自分なりのメッセージを添えることもあります)。この十勝での研究を通して、自分なりの視点/哲学を一つ身に着けることができました(博士号とは英語で *Philosophy of Doctor*。つまり研究哲学を身に着けることも博士課程の大切な姿勢です)。現在私は、“人馴れ”が今後の人間と野生動物の関係性において重要な現象と考えて、そのプロセスと生物・人間社会への波及効果に興味を持ち研究し始めています。

次なる私の研究の舞台は、アメリカです(図 3)。アメリカでは、ロッキー山脈国立公園のマーモットという哺乳類を使って、「アウトドアによる過度な人馴れが天敵に対する脆弱性を高める可能性」について検証する予定です。私は、今 30 歳です。人間と野生動物の共存という大きなテーマに対して、自分自身の未熟さを痛感する日々ですが、まだまだ吸収して成長できる身だと信じています。日本とは全然違う自然と文化を有するアメリカで苦勞することがあるかもしれませんが、楽しく研究に打ち込めます。2 年後、皆さんに成長した姿を見せられるよう頑張ってきます。それでは行って参ります！



図 3. 9 月から所属するカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)

『FGF調査中』

6月8日、9日の2日間にわたり、FGF調査事業の検証を含めて、調査区全域で調査を行いました。エリア1の表土剥ぎ取り試験地は残念ながら掘削後、滞水状況を確認できず、水生昆虫の生息環境が整わず、10月に埋め戻すこととなりました。埋め戻し後、在来植物の移植や播種を行う予定です。移植する山引苗の選定も行い10月12日、13日に移植作業を行います。（参加者募集中）

エリア2、エリア3では、2本のセンサスライン上の40種の指標種の開花・結実種の株数調査を行いました。



掘削地の調査中

編集後記

「うちーさん」がアメリカに研究に行くこととなり、本来なら饞別をお渡ししなければならない所、寄稿をお願いしました。さらに、アメリカ特派員としての原稿も依頼したような気がします。（厚かましい!）n.m

エゾリスの会 会報122号

発行日: 2019. 09. 10

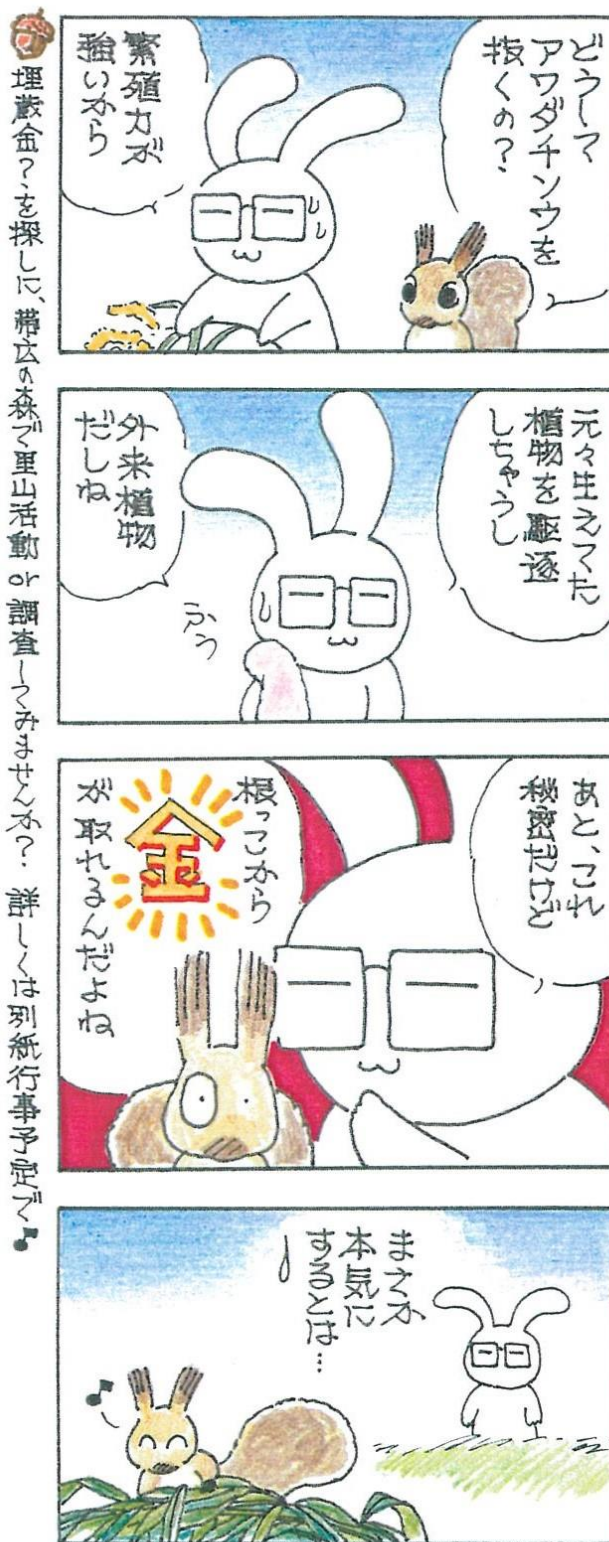
発行: エゾリスの会

〒080-0027 帯広市西17条南3丁目6-14

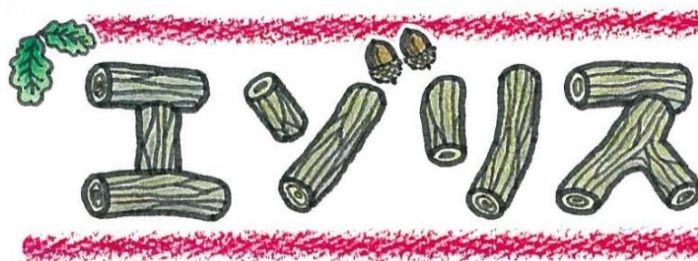
☎0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp

裏エゾリスの会 No. 34



by オーチャングアリス



エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行って

【会報123号】 2019.12.15

F G F 助成事業

「エゾリスの会と私」

文・イラスト：平岡(旧姓 堤) さやか

帯広畜産大学時代に過ごした帯広・十勝。一度就職のため札幌や礼文島で暮らしていましたが、十勝の自然、雰囲気やおいしい食べ物が忘れられず、暮らすなら十勝と思い、一念発起で転職・6年ぶりに引越してきました。大学では、ゼニガタアザラシ研究グループで野生動物やアウトドア生活を楽しんでいたこともあり、また自然に関わる活動がしたいと思っていました。帯広・百年記念館で池田さんよりエゾリスの会を紹介していただき、わくわく半分・緊張半分で初めての活動に参加したことを覚えています。



自然、雰囲気やおいしい食べ物が忘れられず、暮らすなら十勝と思い、一念発起で転職・6年ぶりに引越してきました。大学では、ゼニガタアザラシ研究グループで野生動物やアウトドア生活を楽しんでいたこともあり、また自然に関わる活動がしたいと思っていました。帯広・百年記念館で池田さんよりエゾリスの会を紹介していただき、わくわく半分・緊張半分で初めての活動に参加したことを覚えています。

しばらく自然活動に携わっていなかったせいか、カエルの卵を数えたり、チョウを本気走りで(笑)追いかけたり、と毎回楽しみでした。活動もさることながら、動物・植物を発見したときの会員の皆さんのキラキラした目、気になったことは聞いたり調べたりと好奇心に正直な姿がとても印象的で、なんだかホームグラウンドに帰ってきたという気持ちでした。

エゾリスの会を通じて、普段の暮らしで変わったことがいくつかあります。例えば、母との会話もその

一つ。小さい頃から動物が好きだったことから、時々私から動物の話をするがありました。
電話でエゾリスの会であったことを話しているうちに、最近母のほうから身近にあった動物や自然の話をしてくれるようになりました。こんな鳥を見た～、スーパーの駐車場で購入した納豆パックをカラスに盗られた(!)など、周りの人も自然に興味を持ってくれたことを嬉しく感じます。

また小さい頃から小川に憧れを抱いていたこともあって、川の観察会で川岸を網を持ってがさがさ・生き物を見つける体験が忘れられず、かまぼこ型のたも網を釣具店で購入。小学生のいとこと祖母の家の周りの川でがさがさするのが、毎年夏の恒例行事になりました。

他にも、通勤途中の帯広川でカワセミやハイタカを見つけたり、仕事中にエゾリスを目で追ってしまったり…と帯広の自然の豊かさ・身近に感じられる嬉しさを日々噛み締めています。

毎回の活動内容だけでなく、気づきや疑問に答えてくれたり、さまざまな分野の方とお話できたりといった交流ができることも会の魅力の一つだと思います。好きなことをゆったり・まったり、時には深く・熱く、お話ができる機会は社会人になるとより貴重だなと感じています。

3年間という短い期間、全ての活動に参加できませんでしたが、中でも少しずつ変わっていく帯広の森とその環境づくりに携わることができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

2020年からは千歳市に住むことになりますが、エゾリスの会で学んだことを大切に、引き続き自然に関わる活動に携われればと思います。

本当にありがとうございました。



初めて参加した観察会で
トガリネズミ?の死体を
見つけて興味津々!



冬至祭では焚き火を囲で
冬を楽しみました



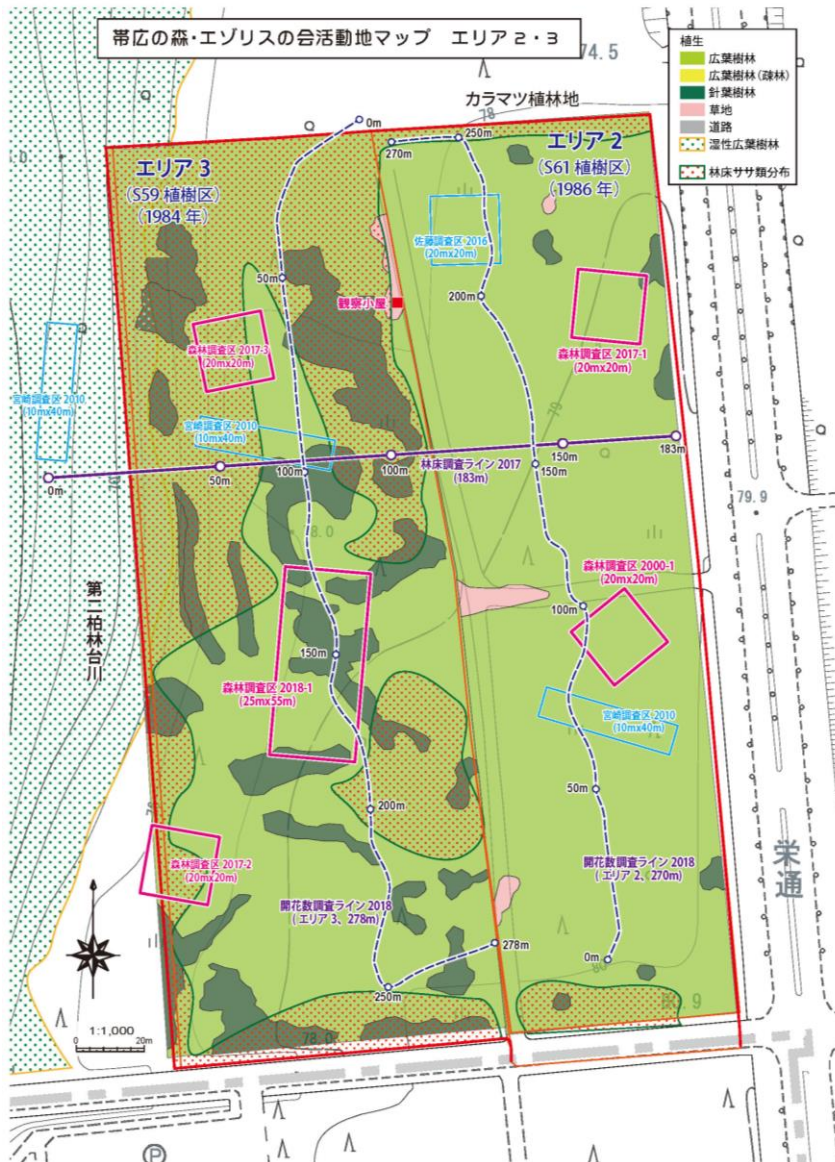
体験したことを生かして
いとこ達と夏休みは探検&がさがさ大会
ヤマメやドジョウがとれてみんな大興奮!

F G F 助成事業 2019 年度速報

2019 年度の調査も終了し、エリア 2、エリア 3 の指標種について報告します。

『考 察』

・2018 年もエリア 2 に比べてエリア 3 のほうが指標種の開花量（開花株数または茎数など）は多かったが、2019 年はその差が大きくなった。エリア 3 では、200～250m 区間以外は各区間とも開花量が増加していた（200～250m 区間も減少幅はわずかだった）。特に増加幅が大きいのは、0～50m と 150～200m の区間だった。



・エリア 3 では 40 種の指標種のうち 7 種の開花量が増加していて（減少は 2 種）、オオウバユリ、オオバナノエンレイソウ、コンロンソウなど特定の種の増加が顕著だった。

・エリア 3 のセンサスラインの 125～175m 付近は、2017 年に外来の常緑針葉樹の巻き枯らしを行った区域を通過している（図 10）。巻き枯らし区では、以前と比べて林床が明るくなり、植物の伸長成長が良くなっている。オオウバユリとオオバナノエンレイソウは、100～150m 区間と 150～200m 区間で増加が顕著だったことから、巻き枯らし処理の効果が出ている可能性がある。

・また、エリア 3 では、200～250m 区間以外は各区間とも開花量が増加していたが、非開花株もエリア 2 よりも目立つことから、指標種の開花量が増加するフェーズにある可能性もある。

・なお、エリア 2 では開花量が減少した指標種は 4 種（増加は 1 種）で、特に大きく減少したのはユキザサだった。区間では、250～270m 区間で 21 本から 5 本に減少していて、これを除けば

エリア 2 の指標種の開花量は前年とほぼ同じレベルだったと言ってよい。

・エリア 2 では、林床に低木類（在来高木の稚樹など）が密生する区間（100～250m）で指標種の開花量が少なかった（図 11）ことから、低木類による被圧の影響が強い可能性がある。ハシドイなどの耐陰性が高い樹種の本数が多く、しばらくはこのような状況が続くと思われる。

『冬至祭開催決定』

12月22日（日）午前10時30分～
今年の冬至祭は、2部構成ですよ！

パート1：しばれ観察会

西10号から第2柏林台川まで、東から西
に向かって歩きます。

何を発見できるか。

だれかの足跡、モモンガの？

ジュエリーアイスも見られるかも？

パート2：ポットラックパーティ

早い話が、みんなで食べ物を持ち寄って
ワイワイガヤガヤ。夕陽も見れるよ。

パート1：しばれ観察会

日時：12月22日午前10時30分

集合場所：西21条南6丁目、西10号

南6丁目交差点より100m北側付近。

持ち物：積雪が深い場合は、

スノーシュー（持っている方）

パート2：ポットラックパーティ

日時：12月22日午後0時30分～日没

集合場所：エゾリスの会観察小屋

（日程表の地図参照）

持ち物：暖かい服装

無理なく持ってこられる食べ物

お湯は、会で用意します。

申込先：三日市まで、

下記に電話、メールを

締め切り：12月19日（木）

傷害保険に加入しませんので、安全管理、
お願いします。

編集後記

エゾリスの独り言：住みづらい世の中にな
ってきたなア～。COP25「パリ協定の
運用」早期実行してよ！ n. m

エゾリスの会 会報123号

発行日：2019. 12. 15

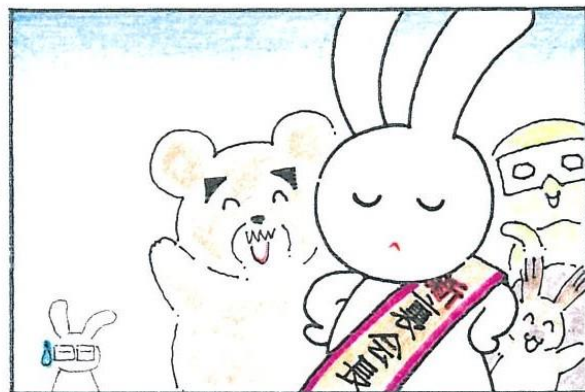
発行：エゾリスの会

〒080-0027 帯広市西17条南3丁目6-14

☎0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp

裏エゾリスの会 No.35



by 71号